

GRIPS文化政策コースで学ぶ

キャリアにつながる

3つの特色・8つのメリット

3つの特色



Photo: Masao Nishikawa

文化政策が学べる日本でも数少ない大学院です。



400人の学生のうち、ほとんどが政府派遣の現役公務員、実践家、専門家です。



そのうち6割が留学生です。(これまでの修了生の出身地、117の国と地域)

8つのメリット

1年で取得できる「修士号」

本学は4学期制。30単位の授業科目の履修と特定課題研究により、1年で修士号を取得することができます。

オーダーメイドのカリキュラム

合計450を超える多様な科目から、自らの興味関心に合わせて選択、オーダーメイドのカリキュラムが作れます。

抜群のロケーション

世界都市東京の中心、港区六本木にあるキャンパス。「国立新美術館」「森美術館」「サントリー美術館」の描く六本木アート・トライアングルに囲まれた、唯一の国立大学です。

経験豊富な教授陣

多様な現場経験を有する研究者から、少人数ゼミで直接学ぶことができます。

人的ネットワークの構築

日本、世界各国から集まる学生は、新卒、派遣、社会人など様々。将来、公務員や専門家、実践家として活躍します。志を共にする同級生との強い絆は大きな財産となるでしょう。

理論と実践の融合

理論的思考に基づき、現場の課題に密着したアプローチで、即戦力を養います。

文化を巡る政策最前線！フィールドトリップと特別セミナー

まちづくり、歴史、アート、各分野にわたるフィールドトリップや、第一線で活躍する外部専門家による特別セミナーは、学生からのリクエストにより企画されます。

選べる成果：

ポリシーペーパーの作成・修士論文の執筆

政策提案型のポリシーペーパーは、派遣元、職場に目に見える成果として持ち帰ることができます。課題追及型の修士論文は、さらなるキャリアアップに最適です。



在学生

佐藤 奨平さん

2022年4月修士課程入学

農林水産省系シンクタンクで経営・フードシステムの調査研究事業に従事したのち、現在は農学系大学に勤務しています。仕事柄訪れることの多い地方では、近年、地域固有の食文化とその形成に役割を果たす地域農業・食産業の活力が失われつつあります。行政も財政難やマンパワー不足等でなかなか手が回らなくなってきました。GRIPSで修得した理論・技法を生かし、“文化財”である食文化を持続的にマネジメントしていくことで、地域のコミュニティやフードシステムの再生を図っていきたいです。



在学生

濱永 清隆さん

2022年4月修士課程入学

COVID-19の影響下、身体表現を伴う文化やその施設は大きな節目を迎えています。民間放送事業者として長きにわたりこれらと深く関わった私は、何も出来ないまま数年が過ぎました。文化の最大のパトロンである自治体などの「公」は、次世代をどのように見据えているのか、そして私自身が「利用者」目線で何が発信できるのか…新しい座組み・実効性のある提言…それらを得るための研究を行いたいという気持ちでGRIPSの門を叩きました。唯一無二のカリキュラムも大いに楽しみです。



在学生

山口 英峰さん

2022年4月修士課程入学

舞台芸術を支える様々な人達と出会いました。大きな使命を感じそこにいることを選んだ人達です。社会環境が想像していたよりもずっと速く、そして複合的に変化しています。そのような中、人々がお互いを知るために集う場所として、劇場が社会から期待されています。そこに集まることで人々が心豊かになることはもちろんですが、集まるための場を支えている人達の環境も同様に豊かでなくてはならないはずです。多彩なカリキュラムと多様なバックグラウンドを持つ仲間刺激をもらいながら、「劇場と労働」について考えたいと思います。



修了生

中西 玲人さん

2016年度修了 修士

所属：アメリカ合衆国大使館

文化担当官首席補佐（当時）

本職と家庭、そして研究と三足のわらじで臨んだ政策研究大学院大学での2年間は恐らく自身の中でも最繁忙期だったとは思いますが、思い返せば様々な先生方、先輩方そして世界各国から来た周囲の留学生との交流に支えられた日々でした。新しい世界的パラダイムを迎えた中、日本の切り札とも言える文化力。文化政策は外交政策や国レベルだけでなく、地方創生や地方産業政策における極めて重要な領域になると確信し、日本で唯一専門的に文化政策を学べる本プログラムでの修士を選択しました。もちろん今でもこの選択は正しかったと思っています。



修了生

小島 寛之さん

2021年度修了 修士

所属：独立行政法人勤務

本コースには、文化政策を公共政策のフレームワークの中で理論的に学ぶ講義やゼミに加え、文化分野の第一線で活躍する方々との意見交換や関係機関の現場見学など実践的なモジュールも多く組み込まれており、充実した学びを得ることができました。私自身は、日本と諸外国の国際文化交流を推進する仕事に携わっておりますが、国内及び諸外国の文化政策の動向の分析を通して、公的資金を用いた文化活動支援を支える理念や評価手法に関し、多角的で複合的な視点を持つことができたことは大きな成果となりました。



修了生

松井 真理子さん

2021年度修了 修士

所属：横浜市杉田劇場

神奈川芸術劇場

私は文化芸術の現場に携わってきた経験を文化政策へ活かすためにGRIPSに入学しました。劇場で働きながら、学業にも取り組むという大変な1年間を過ごしました。しかし、苦労と共にGRIPSでたくさんの知見を得ることができました。特に、日本だけでなく国際社会の影響から、政策や法律が作られ、文化の現場に反映されていることを学び、自分の仕事とどこにつながっているのか、改めて俯瞰して捉えることが出来ました。自身の経験を振り返る機会になったとともに、多様化する今後の文化政策を担っていくために必要な視点を得られた貴重な機会となりました。

お問い合わせ

政策研究大学院大学
公共政策プログラム
文化政策コース
CULTURAL POLICY CONCENTRATION

コースに関するお問い合わせ、キャンパス見学等お気軽にご相談ください。
Zoomでのご面談も可能です。

■E-mail culture@grips.ac.jp

■文化政策コースHP <https://www.culture.grips.ac.jp/>

